

編集後記

陽春4月、櫻花爛漫とその妍を競う、1年中でも晴れやかな季節がやつて來た。それと時を同じうして、過去1カ年の精進のあとを示す各學界の幕が各地で切つて落される。昨年、東京で未曾有の盛會振りを示した日本醫學會が、今年は北は北海道から南は九州に至る各地で、華やかに開催されようとしている。丁度1年前の本誌では、日本醫學會總會を機とし論説を掲げて病院管理學會の提唱を行つた。その結果として、澎湃として湧き起つた同志の熱意が、日本病院協會の設立を契機として、日本病院學會の創立を齎らし、6月25日第1回日本病院學會の開催に成功せしめた。本學會は未だ日本醫學會には加入していないが、日本病院協會の一事業としてその第一歩を踏み出し、今年も同じく6月に第2回を開催すべく目下着々準備が進められている。何れ近くその具體的計畫の發表があると思われるが、廣く病院人の御参加を希望して止まない。

時恰も、我が國再建の秋に當面している。病院管理は、何度も云われる如く終戦後俄かにスポットライトを浴びて大きくクローズアップされた問題だが、今日迄の處は所謂翻譯時代の軌を脱していない。併し、終戦後大きく急轉廻した我が國の社會制度は、我が醫界に限らず凡ての面に亘つて多かれ少かれ翻譯時代と云つて過言でない様に思われる。教育制度然り、警察制度然り、地方自治制度然り etc。そして今日、獨立を機として凡ての制度が、我が國情、習慣に照して再検討の時期に達している。憲法の改正論すら日中堂々と論議をされている時代である。民衆の生活の中に溶け込むべき、實際それと切つても切れぬ關係にある病院は、矢張りこれを利用する民衆の習慣、風俗を充分考慮した姿に於て再建されなければならない。つまり翻譯時代を經過した我が病院は、この邊で禪をしめ直して大いに獨創を發揮し、眞に我が國に相應しい在り方を確立したいものである。その爲には、從來門外不出の病院經營の實態を、堂々と明るみへ持ち出して、他人の批判を仰

ぐということも必要であらう。又啓發し合うことも有益であらう。

我が國の病院は、明治初年その組織を歐米に仰いで以來、よい環境に恵まれて儉安の夢を食つて來たが爲に却つてその發展を阻まれた嫌いがある。併し今日の如く社會が複雑化し、國民生活が深刻な様相を呈して來ると瞬時も安閑としては居れなくなる。その本質的な存り方を深く反省して、もう二度と同じ誤りを犯したくないものだ。

守屋氏の所論は、愈々問題の核心を衝いて來た感がある。前號の本欄で唱導したPR活動が未だ緒についていない今日に於ては、先ずこの邊からそろそろ手をつけないことには、いつ迄も舊套を脱し切れないのではなからうか。近代的病院として、近代社會の要請に應えるためには、醫療社會事業が病院機能の一環として今や必須の時代となつて來た。これは單に患者サービスのため許りでなく、病院經營上缺くことのできない重要な分野を構成している。併し何の場合でも、人とポストの關係は鶏と卵の關係に似て、どこかで思い切つて踏み出さないと解決はつけ難い。松尾氏の主張は偉大な決斷を要望しているものと云えようか。近時我が醫學界に於ても、麻酔の問題が注目を浴びて來た。これも病院として看過できぬ題目となりつつある。天野氏の貴重な體驗は参考となる處尠くないと思われる。御精讀を希望する。

豫てお約束していた外國分献の紹介が、漸く實現し始めた。米國では一般醫(General practitioner)の問題が昨今の大きな話題の種になつている様だ。未だ専門醫制度すら確立されていない我が國にとつては高嶺の花の様な氣もするが、考えておかねばならぬ問題ではある。

病院問題を各論的に進展せしめるべく、目下「病院全書」の刊行を計畫中である。御期待と御鞭撻を切に願ひます。(編者)

— 表紙説明 —

寫眞は、陽春のひざしの中で。日本赤十字社中央病院中庭。